

Yanomamö

7/Alliance With the Mishimishimabowei-teri

(Mishimishimabowei-teri との同盟)

谷 直子

207-1 この章では、1950 年に Ruwahiwa を殺害したことと、このことによって Kaobawä の人々と Ruwahiwa の子孫の村 (Mishimishimabowei-teri) との政治的関係がどうなったかについて述べる。

207-2 Mishimishimabowei-teri と Bisaasi-teri (Kaobawä の村) はいくつかの特徴で区分。村の大きさ = Mishimishimabowei-teri の方が大きい。

その他の差異 = 個人の特殊な歴史

一夫多妻の総計 (少数の男が多数の子孫を残す)

社会関係に影響を及ぼす

Mishimishimabowei-teri は Patanowa-teri (Kaobawä の村から 1950 年代に分裂)

と似ている = 少数だが大きな父系リネージ関係のメンバーによる支配。

207-3 第 1 章 1968 年に Karina と一緒に Mishimishimabowei-teri に到着し、最初の接触に成功。Bakotawa に見捨てられ、カヌーを作って自力で下流に戻る。

第 1 章 ~ 6 章 Shamatarí が一般的で Mishimishimabowei-teri が特殊と言及。

207-4 Chagnon は同じ部族 (tribe) の異なる村々のメンバーとして知られるようになる。

Margaret Mead 以降のフィールドワーカー

一つの村に一年間滞在して参与観察。一つの村の一つの歴史について限られた経験人類学的な基準でも普通のこと ← Chagnon の経験ではそれでは偏ったものになる。

208-1 フィールド調査開始時、250 ~ 300 の Yanomamö の村。それぞれ共通点と差異。

村のサイズ 婚姻のパターン 暴力による死の割合と女性の誘拐の頻発

Mishimishimabowei-teri と Bisaasi-teri は人口から見ると類似。

他の Yanomamö と比較すると極度の戦争のパターンと大きな村。

Mishimishimabowei-teri の概念

208-2 Bisaasi-teri は Mishimishimabowei-teri を 'Sibarariwa' の村と認識

Sibarariwa = 著名な男 ヘッドマン 1968 年には彼の名声と政治的占有は Moawa に移る。

Moawa = Sibarariwa の兄弟の子 Ruwahiwa の長男 Ruwahiwa と Sibarariwa は兄弟

208-3 東と西の別の Yanomamö グループは Bosikomima (ケツの穴の詰まった奴) の村と呼ぶ。

Bosikomima = 伝説のヘッドマン 本名は Makuwa 'Shinbone' 11 人の妻と 43 人の子どもをなし、彼の子孫は Shamatarí のほとんどの村で政治的派閥を占有。

Ruwahiwa と Sibarariwa は息子のうちの 2 人。

Shamatarí の村のサンプル 1000 人近くの住民中 75% が彼や彼の父の子孫

208-4 1990 年以降に研究をはじめた新しい村で Makuwa の子孫と傍系親族を発見
分裂の歴史と人口の拡散から、子孫はもっている

209-1 Mishimishimabowei-teri は一般に Makuwa の村や Sibarariwa の村と呼ばれる

父系系統の概念が高次に発展 単一の著名な父系系統のグループとして村全体が見られる。Makuwa の父系リネージ

Shamatarí 地域の村 = '単一リネージの村' と考えられる。アマゾン盆地の部族の性質

209-2 Mishimishimabowei-teri = 最も大きな Shamatarí の村 1968 年 270 人くらいの人々

その後何度も訪れ、Chagnon の第二の故郷になった。

209-3 1968 年以降外部との接触とミッションの存在が Kaobawä の村に影響を与え始める。

文化変容の研究 = 現代のフィールド人類学に有益な要素

Chagnon は未接触の Yānomamö の村で人口統計学や戦争のパターンについて原住民のパターンから学ぶことは重要と感じる

Kāobawä の村での調査を中断し、Mavaca 川の上流に住む Mishimishimabowei-teri を訪ねる。

- 209-4 Mishimishimabowei-teri = Mavaca 川の上流 カヌーで3日間と半日以上の徒歩の旅
接触が難しく、比較的初期のまま 付近にいくつかの大きな Shamatari の村（未接触）
1971 年メイングループの Iwahikoroba-teri と初接触（命を落としかける）
1987 年内紛が終わらないまま彼らと接触 Shanishani 川流域の Patanowa-teri の南側に
住む
1990 年以降 Mishimishimabowei-teri の南側と東側の Shamatari の村と接触
最近のフィールド
- 209-5 多くの Shamatari の村では、隔離されたままで外来者の訪問を受けたことがない。
しかし、外来者を全く見たことがないわけではない。

二つの村の比較

- 210-1 二つの村 平行した歴史 よく似ている
75～100 年前に Shanishani 川流域の近隣に住む（Fig5-2）
低地の生態学的な適地で良く似た社会・経済的適応。
移住と再定住のとき、低いリスクの生態的種類の土地を選び、村の大サイズを保持。
彼らの土地に取って代わろうとする近隣の人に厳しい。
生計を立てるのに必要なもの以上の土地を求め、保持 緊急時に敵から非難する避難所を
確保 histcry と適応環境の中での ‘社会的’ 構成要素の重要性
- 210-2 どちらのグループも最近の 50 から 70 年間は同じ移住の方向と進路を取る。
東→西へ お互い避けていて規則正しい。
Kāobawä の村→北 Mishimishimabowei-teri→南 あたかも連動しているよう。
互いに敵なので平行に移動して、適度な軍事的距離を保つ。
- 210-3 どちらのグループも比較的大きいので周囲の小さなグループを抑圧。
強制的な婚姻による同盟や誘拐で多数の女性を得る。
多数のウノカイ（男が他の男を殺す）を行う = 成人男性の暴力による死亡の割合は、
どちらも高い。
- 210-4 どちらのグループも大きいので、最近の歴史の中では一人以上ヘッドマンがいた。
ヘッドマン同士は尊敬と政治権力に関して競争者 = 村が小グループに分裂。
Kāobawä のグループ
1960～1966 年に数回分裂 Kāobawä はグループ内で単独で最も影響力がある。
1964 年 225 人 Hontonawa（Paruriwa）が 1966 年に権力を得ようと分裂→半分に
- 211-1 Mishimishimabowei-teri も多数の政治的リーダーを持つ – ほとんどが同じ父系子孫グループのメンバー（Matakuwa が多くの子孫を持つ）
1968 年ごろ Sibarariwa は Moawa から分裂 他の父系親族の支援を受け、Ironasi-teri
という新しい村を Mishimishimabowei-teri の南、徒歩 1 日のところにつくる。
後に kedebabowei-teri として知られる。
Mishimishimabowei-teri は 1968 年に約 150 人 以前は 400 人くらいいたらしい。
土着の、先接触の環境下で最大の Yānomamö の村。
1968～1975 年 Moawa が Mishimishimabowei-teri の唯一のヘッドマン。
- 211-2 村のサイズが大きい = 組織的な問題が生じる 古い対立が表面化しやすい。
村の分裂の理由 = ‘私たちは村の中にとても多くの人がいて、いつも棍棒で闘っている。
私たちは闘いを止めるために二つの村に分裂した。’

- 分裂後もお互いに視界に入る (*he borara*) に住む ← 敵がいた場合危険だから。
- 211-3 Mishimishimabowei-teri の部族世界の問題 = Chagnon の考えでは最近の人類史のなかで繰り返された。
- 効果的な統合の仕方 大きく永続的な人類のグループを平和な共同体にする。
- 対立や敵対を効果的に解消すること。
- 定義によると、初期に社会と社会的政治的生活は一時的・排他的に親族・子孫・婚姻による結びつきの原理によって組織されている。
- 300 を超える人口のサイズになると、組織原理に加えて村を結合させる「のり」が必要。
- クランやリネージの発達はおそらく組織的改良。
- 他の対立解消メカニズム (審判官 *go-betweens* *peace-maker* ヌアの豹皮のチーフ)
- 他に政治的リーダーの権威の増加 → *Yaɲomamö* はこの方向に進んだ。
- Mishimishimabowei-teri* は独裁と大きな権力の方向に ← 珍しい。
- 211-4 対立の解消を社会の複合化と人類のグループサイズの進化の中で探る効果的な方法は、カラハリのブッシュマンや *Yaɲomamö* やリベリアのクペレの間でどのように取り扱われているか考えること (3つのドキュメンタリーフィルム)。
- ブッシュマン = あまり大きなグループにならない。
- 水と食料資源の必要から季節的に小グループに分かれる。
- 対立は慣習と親族にアピールすることで解決される
- Yaɲomamö* = 300 ~ 400 人のグループになる
- 対立は慣習と親族にアピールすることで解決されない
- リネージの構成員は人々を父系親族に並べる
- 村はより「構造的」で、子孫のグループを基盤とする
- 対立の解消 = 押し合い → 胸タタキの決闘 → クラブファイト → 尖ったやしの棍棒やナタ = 致命傷をあたえる
- 両者の共通点 = 問題解決の最後の手段は、致命的な力を使うことしかないと知っている。
- 212-1 クペレ = 'Dolo Ken Peyé の牛' の議論に対立解消の原理が含まれる。
- 共同体の構成員は数百から数千。
- 親族の頂点にリネージ、リネージにランク差、チーフと平民が存在。
- 地域のチーフ、いくつかのコミュニティに権威をもつチーフ
- 最高権力のチーフ
- 法律的な組織 神判によって有罪・無罪をきめる専門技術者のシステム。
- 神判による専門技術者はチーフに仕え、判断が平等とはいえない。
- 212-2 *Kaɔbawä* と *Moawa* は全く異なるリーダーシップ。
- Moawa* は独裁的、より大きくて恒常的な組織の問題を抱えているから。
- 二人は対照的、村の統轄の仕方、他村に対する政治的表現の仕方。
- 212-3 *Kaɔbawä* = 柔和な物腰 外交手腕がある 思慮深い 見栄を張らない 穏やか
- Moawa* = 野蛮 不愉快 うるさい 周囲の人に対して卑劣 常時威嚇的 居住者を脅す
- Chagnon が会った最も不愉快で卑劣な人物
- 卑劣な評判は近隣の村に知れ渡る 暴力的な傾向は伝説に。
- 213-1 *Yaɲomamö* の戦争と暴力に関する調査の記事を公表。
- ウノカイの分類では、16 人殺した男がいた
- Moawa* は 22 人殺している。 *Rahaka* の鋏を剣として用いる。
- 待ち伏せして後ろから襲う。
- 213-2 彼を嫌っている人でさえ、彼を恐れる。
- 1972 年頃、不愉快な季節の後、Chagnon は *Moawa* が生きているうちは、

Mishimishimabowei-teri に戻りたくないと思う。Chagnon は Moawa は敵で、友好的に接したくないと周囲の人に言う。脅しと接し方にうんざりした。

Bisaasi-teri と Mishimishimabowei-teri の接触

- 213-3 Kaobawä たちは最初の調査の頃 Mishimishimabowei-teri のことを話した。
頑固な敵、徐々に関係に触れ、感謝と行為の受け入れにも言及。
1950 年の ‘だまし討ちの饗宴’ について議論。
nomohori は Bisaasi-teri の最近の歴史の中で大きな出来事で、Shamatarī を憎む。
特に Dedeheiwa はシャーマンで、いつも話に上る。
- 214-1 nomohori は Amina-taka という場所で起こった、Ruwahiwa 殺害に対する復讐。
Amina は同じ名前の山の隣にある菜園 (Iwahikoroba-teri によってつくられた)。
Bisaasi-teri の多くの人がここで暴力によって死亡。
- 214-2 Ruwahiwa 殺害に対する復讐は Iwahikoroba-teri と Mishimishimabowei-teri の共同指揮。
二つはもともと同じ村で、Ruwahiwa 殺害後分裂。
Iwahikoroba-teri が Kaobawä たちを饗宴に招待。このとき Iwahikoroba-teri は中立。
こっそり Ruwahiwa の近親者も招待 – 隠れていてから急襲。
- 214-3 Mishimishimabowei-teri の一部 = だまし討ちに反対 = Kaobawä たちが逃げるのを助けた。
Dedeheiwa たちもそのなかにいた。Kaobawä たちは感謝。
- 214-4 Amina での虐殺以前に Kaobawä の村の人は Dedeheiwa の姉妹の Yanayanarima を誘拐。
彼女は Kaobawä の父の兄弟の妻となり hukoshadadama という息子を持つ。
親族システム上、Yanayanarima は Kaobawä の母親となり、hukoshadadama は Kaobawä の兄弟となる hukoshadadama は後に述べる同盟確立時に一時的なキーパーソンとなる。

平和を模索する人たち

- 215-1 Rerebawa ははじめの頃 Chagnon と Mishimishimabowei-teri に行き、数週間過ごす。
Bisaasi-teri と Mishimishimabowei-teri の間に平和を確立する社会機関になった。
- 215-2 Rerebawa = Bisaasi-teri の同盟者で Korohi-teri のものだと言われるのを恐れた。
Shamatarī を殺したこと。
- 215-3 Rerebawa は Mishimishimabowei-teri の人々が、Bisaasi-teri の同盟者として奇襲に参加したことを知っているのではないかと危惧。
Mishimishimabowei-teri の人々は知らないか、外交手腕を理由に見逃した。
- 215-4 一年間の滞在中、Rerebawa を礼儀正しく扱う。
Mishimishimabowei-teri は 1970 年に Bisaasi-teri と karohi-teri (Rerebawa の故郷) と同盟確立に対する興味を表明することを決定。
- 215-5 Dedeheiwa と Mishimishimabowei-teri の政治的リーダーは karohi-teri が Mahekodo-teri と戦争状態で、あるグループが分裂したことを知っていた。
Mishimishimabowei-teri は Rerebawa に自分達は karohi-teri の味方で、敵に超自然の力で攻撃したいと表明。これを証明するため、Mahekodo-teri に関する情報を得たいと言い、Rerebawa はそれを与えた。
- 216-1 Dedeheiwa は Mishimishimabowei-teri のシャーマンを組織して Mahekodo-teri の子どもに対して二日間の呪術的な攻撃を開始。
Rerebawa は注意深く見つめた。Dedeheiwa たちは Rerebawa の代わりに攻撃している。
Dedeheiwa たちは子どもの魂を盗んで食べてしまい殺すことで、友好を結ぼうとする。
- 216-2 Chagnon は 16 ミリのカメラとテープで記録。
テープは数時間でカメラは 60 分くらい 後で音とテープをあわせる。
- 216-3 Rerebawa は Kaobawä に Mishimishimabowei-teri が和平を結んで同盟したがっているという政治的メッセージを送る。Mishimishimabowei-teri は Kaobawä に友好を示すため

- 訪問して欲しいと願った。
- 216-4 同盟創出の過程は魅惑的だった。Yanmamö の政治的原理、歴史的・一般論的事実の取り扱いが、当面の政治的必要にあわせて変化すること、個性や特別の血縁的紐帯が部族間の出来事が敵との対立の解消のためにどのように可能になるのか暴露された。
- 新石器時代の平和に関する社会的・誇大な要素**
- 216-5 Kaobawä は何事も注意深く考える。
信頼を示す決意をして、Chagnon に Mishimishimabowei-teri に一緒に行ってくれと相談。
Chagnon はあぜんとする。20 年間の悲劇の蓄積。
- 217-1 リスクの多いこと、計算を間違えると、致命的な社会結果。
国全体をかけるような政治的決定を含んでいた。
異常な楽観主義と人間の性質を正確に予言する。
- 217-2 Kaobawä も Shamatar i との血みどろの戦いに対する情報提供者。
Dedeheiwa は Shamatar i の視点で話し、より確実な情報を得る。
お互いのして来たことの多さから、平和の創出はばかげたことと思われた。
Chagnon は以前に、Mishimishimabowei-teri に行こうとした時、虚偽や計略や予測できないことが、起こることを理由に、Kaobawä たちが思いとどまらせようとしたことを思い出させた。
- 217-3 Chagnon は不幸に貢献してしまうのではないかと心配。
Kaobawä は、結果的に平和になるといって、Chagnon が行かないなら自分たちで行くといった。
Kaobawä は、Chagnon の役割は中立な仲介者で、和平樹立の成功に貢献できると話した。
- 217-4 Chagnon は Kaobawä が同行者を選ぶ方法を興味深く観察した。
Tokoroiwa = Kaobawä の兄弟、名の知れた勇者、重要な社会的存在、巧みな演説者。
母は Shamatar i の人。
Rerebawa = Mishimishimabowei-teri は彼をすでに知っている。
その他の人もそれぞれ特別で明確な理由で選ばれる。
Hukoshadadama = Chagnon にとって魅力的 Kaobawä の平行イトコ。
母は Yanayanar ima。
Dedeheiwa の実の姉妹で Mishimishimabowei-teri から誘拐されてきた。
- 217-5 Hukoshadadama = 中くらいの著名人 Kaobawä の‘兄弟’ 村落間・内の政治力はない。
Dedeheiwa = Mishimishimabowei-teri の実際の著名人 政治的リーダーとしてシャーマンとして尊敬を集める。
Dedeheiwa は Hukoshadadama の母の兄弟で、Yanmamö の文化の中では根本的に重要。
- 218-1 Kaobawä = 同様に Dedeheiwa と関係 想像上の血縁（実際の血縁はない）
Hukoshadadama は Shoabe（母の実の兄弟）である Dedeheiwa を訪ねたいと思う。
よく知り、所有物を共有し、食事をし、狩りに行きたいと願う。
Shoabe a yai（実の母の兄弟）に会えないと悲しんだ。
- 218-2 Hukoshadadama = 正統な遺伝子と系統を持つ 文化的に有益な媒体。
2つのグループ間の重要で持続的な政治関係創出に使われた。
Kaobawa = それを政治的同盟に変える力を持つ。
- 218-3 Hukoshadadama = 同盟関係が発展する短い間政治的に注目を集める。
同盟関係の次ぎのステップ構築を簡単にする血縁関係を持っていた。
ステップができると政治的背景を縮小した。
彼の遺伝子と系統は、短い決定的な時期に有意義に利用。
社会的武器となった。

- 218-4 Chagnon たちはカヌーで Mavaca 川をさかのぼり、内陸に入る。
 数時間後前方を行く人の声を聞くと、どこかの村からきたハンターが分からない。
 Iwahikoroba-teri の者なら、Chagnon たちの身に危険がある。
 口笛と警戒音で存在を知らせる 沈黙の後口笛が返ってきた。
 お互い神経質に用心深く近づいてきたことが分かり、武器を構える。
- 218-5 Chagnon は武器を構えていないふりをした。
 短いメッセージを前後に叫びながら、好奇心と警戒をしながら注意深く移動。
 Kaobawä は Chagnon が一緒にいて友好的だと叫んだ。
 扇形に広がって側面を守る。身を隠すべき。
 彼は borowo で、私たちを先導に来た。ホストは私たちを見つけるのが義務。
 相手も扇形に広がって側面を守る。
 Moyawe は武器を低く構え、訪問者の中に Chagnon がいるか尋ねた。
 矢の届く範囲にいることを知ると、葉の茂みに隠れて用心深さを示した。
 彼の名は Yoroshianawa (25 歳) = Mishimishimabowei-teri の政治的リーダーの弟。
 政治的に中くらいの重要度 (a browahawa)、
 若い政治的洞察力に優れる。
- 219-1 Kaobawä = しゃがんで注意深く探した後、威嚇に満ちて立ち上がった。
 二人は見つめあい、微笑んで挨拶を交わすと、両グループの人々に前進するよう合図した。
 Yoroshianawa の一行が歓迎したので、森中が興奮した叫び声で満ちた。
- 219-2 両グループの人々は、熱心に礼儀正しく話す。誰が誰であるかほのめかし、探る。
 誰が誰であるか分かると誠実に喜びを表現した。
 お互いによって殺された人々に言及する事は困難。
 事前に過去の系統について予習していて、誰が相手のグループの中で生きている人で、お
 互いを認識するのに適当な関係が注意深く決定。
 不注意に死んだ親族の名前を出して、誰かを認識しようとする攻撃。違えば寛大。
- 219-3 Chagnon は一心に見聞きた。
 Kaobawä = Yoroshianawa の一番上の兄を復讐の奇襲で撃った。
 Wadosewa = 骨盤に当たって、鋸が尻に深く埋まり、足が不自由になる。
- 220-1 単純だが壮大で Chagnon が見た中で一番高尚な出来事 = 社会的交換。
 礼儀として通常、到着するとすぐホストは食事を提供する。
 Kaobawä たちも村にいたら食事が用意されていることは知っていた。
 村までまだ 2 時間ほど歩かなければならない。
- 220-2 Yoroshianawa = 政治的洞察力に鋭い。
 若い男たちに短い指令を発し、ジャングルに向かわせる。
 自分は穴を掘り始める 直径 18 インチぐらい深さ 12 インチぐらい 楽しそうに話す。
 若いハンターに命令→広い葉っぱの束を持って戻る Yoroshianawa は穴に葉を並べる。
 若い男たちはジャングルからヤシの実たくさん持ち帰る。
 Yoroshianawa は穴を使ってヤシの実ジュースをつくった。
 短いコメントとともに Kaobawä にすすめる。
 Kaobawä はゆっくりと飲み、ヤシの実ジュースを政治的な祝杯に変えた。
- 221-1 Yoroshianawa はランク順に、Kaobawä たち全員に同様の事をした。
 Chagnon は何番目が覚えていないが最後ではなかった。
 社会的なものごとに対する基本的な社会的自覚のみが必要とされた。
- 221-2 Chagnon が見た中で最も洗練された名誉とステータスと儀式と尊敬を示すものだった。
- 221-3 まだ午後の早い時間だが、村まで 2 時間以上あるので、ここで夜を過ごす。

- 221-4 翌朝村に向けてすすむ。温かく迎えられ危険がないことを確信した。
Mishimishimabowei-teri の男が午後に Chagnon たちが到着すると知らせに行った。
- 221-5 興奮は Chagnon たちが村に行進していったとき高まった。大声の挨拶が響き渡る。
武装した男たちが駆け寄り、踊った。頭上で武器をカタカタ鳴らし歓迎の叫び声があがる。
Chagnon たちは *Shabono* の Moawa のセクションに案内され、政治的な会話の前に食事と休息の時間を与えられた。
- 221-6 食事中村の重要な男たちが周囲に集まる 静かに話していて邪魔はしない。
Wadosewa や Sibarariwa のような人は不在で意思を示した。
Ironasi-teri の人々もいた。
- 221-7 Moawa は好奇心の強い子どもを追い払う 子どもはしぶしぶかくれる ビッグマンが集まる。
- 221-8 Kaobawä は立ち上がって交換を始める。敵同士になる前の良い時代のことを暗唱し始める。
それを承認する声と補足が Mishimishimabowei-teri から起こる。
Kaobawä は定期的に中断し、Moawa たちがコメントを述べるのを許し、それに対して支持する。
- 221-9 Chagnon は歴史と事実の大きく歪曲しているのを聞き、笑うのをこらえるのが難しい。
それぞれのグループが嘘と分かって暗唱しているのを知っていた。政治的に必要。
- 222-1 Ruwahiwa (Moawa の父) 殺害の題材は相互に受け入れやすいよう改変。
Bisaasi-teri は罪人ではなく止めようとした 扇動者は Husiwa 。
事件後 Kaobawä たちと分裂。
他の罪人は Monou-teri に含まれているとした。Tokoroiwa も Monou-teri なのに賛成。
1950 年の Amiana でのだまし討ちの饗宴の話も改変される。
Mishimishimabowei-teri は犠牲者を逃がしたことで許された。
扇動者は Moawa たちから以前に分裂した卑劣な Shamatar i だとした。
Chagnon は笑いをこらえられない→当事者達はみんな目の前にいた。
- 222-2 彼らは歴史をよく知っているからといって、それを再現する必要はない。
政治的に都合がいいように変更しただけ。
- 223-1 Kaobawä たちは皆同じ日に帰り Bisaasi-teri に戻った。
平和は樹立し新しい時代と政治的同盟が始まる。
Mishimishimabowei-teri は饗宴とダンスに招かれ、来ることに同意した。
- 223-2 数週間後 Mishimishimabowei-teri から男たちが Bisaasi-teri に来る。
Patanowa-Teri への奇襲に参加した。女性と子どもは Bisaasi-teri から遠くに隠す。
- 223-3 wayu itou に参加する勇士は単独の奇襲隊としては最大の 60 人。
Patanowa-Teri への奇襲は失敗 Mishimishimabowei-teri は新同盟に対する誓約を示す。
- 223-4 両グループの訪問が始まる 主に Mishimishimabowei-teri の男が Bisaasi-teri を訪問
たまたま Bisaasi-teri の若い男がカヌーをこいで Mishimishimabowei-teri に行く。
- 223-5 Dedeheiwa の兄弟 = 年老いていて、姉妹の Yanayanarima と Bisaasi-teri に引っ越す。
二人の息子と Dedeheiwa の息子たちも結婚して Kaobawä の村に住む。
二人の息子と Dedeheiwa の息子たち = Chagnon の友、ガイド、情報提供者、旅仲間になる。
- 223-6 Dedeheiwa = 良い友、情報提供者、Kaobawä の村を定期的に訪ねる、Kaobawä の友。
- 224-1 全ての Mishimishimabowei-teri が温かく迎えられたわけではない。
Koro-teri グループ = Kaobawä から分裂 同盟に脅威を与える トラブルを起こす
深刻な戦い
訪問者が村の女性をそそのかしたとして斧でひどく打たれ、帰宅後に死亡する。

- サレジオ会の神父からショットガンを手において、Kaobawä の村人を脅す。
Kaobawä たちはミッションから離れていてショットガンなどを持っていない。
- 224-2 最も驚いた訪問者は Moawa ‘*hesu kristu*’ が見たいといった。
Bisaasi-teri の訪問者から ‘*Diosi urihi-teri* (ミッション・神のテリから来た人)’ は *no owa*(神の像)を持っていると聞いていた。キリストの像が見たいという。
Moawa = 優れたシャーマン 他の人の精霊や神や *hekura* が見たいのは普通のこと。
サレジオ会の神父に紹介し、十字架が見たいといっていると伝えた。
- 225-1 Moawa = 裸 赤と黒でペイントし、プラムとビーズの耳飾り 弓矢を持つ。
神父は十字架を渡した Moawa はニヤニヤ笑う。
‘あなた達の *hekura* は死んでいて柱に縛られている。頭にいばらをつけている。私には強そうに見えない。柱に縛られてどうやって敵を攻撃するのか?’
- 225-2 Chagnon は Moawa のコメントを訳さず、神父に彼は ‘十字架が気に入った’ と言って、感謝を述べて、去る。
- 225-3 サレジオ会のミッションは Mavaca 川の下流に移動した Mishimishimabowei-teri を布教しようとした。
1973 年に移動したが、すぐ下の土地に戻る Bisaasi-teri を心から信用していない すぐ人が来る土地にいたくない。
Bisaasi-teri から分裂した人はカヌーとショットガンを持っていて、Kaobawä は彼らをコントロールできなかった。
- 226-1 Mishimishimabowei-teri のメイングループは Mavaca 川の上流に住んでいて、Bisaasi-teri と訪問を続けているが、隔離された関係。
1985 年に二つのグループに分裂 一つは Mavaca 川の上流の岩場の丘に住む。
1996 年 5 月の訪問では、1987 年、1992 年とほぼ同じところにいた。
もう一つのグループは 1996 年の旅で位置づけられなかった。
1995 年 9 月に Abruwa-teri (ブラジルとベネズエラの国境) を調査したとき、Mishimishimabowei-teri の多くが Cuuburi 川流域の Yānomamö とショットガンと弾薬を手に入れるため訪れていて、Mavaca 川下流の Yānomamö と戦争をしているらしいと聞く。
- 226-1 Moawa と Dedeheiwa の死
Moawa = 多分 1977 - 1978 ごろ呼吸器の感染症にかかる。
1985 年に Kaobawä の村に行くと、Dedeheiwa の息子がいて、熱心に私にささやいた。
‘あそこに住んでいた偉大な人はもういません。私たちは幸せです。他の Yānomamö 村人が訪ねてくるようになりました。彼が生きていたときは敵でしたが、今は友人です。’
彼は、Shagunon に以前より平穏に暮らせるからと、村に戻るようすすめて、Mishimishimabowei-teri の人たちは ‘家’ に帰ってきて欲しいといった。
彼は、Dedeheiwa が Shagnon に Mishimishimabowei-teri という新しい名前を与えたと言った。
村は Shagunon で、Shagnon は村そのものだった。それは Yānomamö が与える最高の名誉。
- 226-3 Dedeheiwa は 1986 年に Mishimishimabowei-teri で年老いて死んだ。彼は晩年まで、毎日活動的で、病人の親族を治療したり、敵に超自然の損害を与えたり、踊ったり、*hekura* に呪術的な歌を歌ったりした。